

ほいく誌ファン No.70

わたしたちは
月刊『日本の学童ほいく』を
“ほいく誌”と呼んでいます



ほいく誌部会
愛知学童保育連絡協議会 名古屋市学童保育連絡協議会
2025.1 発行

ほいく誌 読み合わせ

2022年7月号 特集

「あしたも いっしょに
あそぼうね」



「子どもにとっての遊びとは」 p27～31

代田盛一郎さん／大阪保健福祉短期大学

2 子どもの遊びをとりまく今日的状況と課題 (p29-31)

2年前のほいく誌2022年7月号からですが、交流テーマの「遊び」に合うものを選びました。少しずつコロナ禍から活動が回復し始める中で、改めて「遊び」について取り上げた記事です。

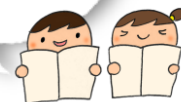
今の子どもを通じた子どもにとっての「遊び」とは何かが書かれており、子どもの遊びに関わる際に指導員が大切にしたい視点が述べられています。保護者が読んで納得する視点です。

子どもにとっての「遊び」は、“自発的、自主的に行われるもの”で、学童保育だけではなく家庭でも通じるように感じます。子どもを取り巻く環境が変わる中で「遊び」も変わりますが、中でも、子どもの「遊び」に大人が関わる時に大切にしたい視点を確認しつつ、子どもとの関係性を考えていきたいですね。

どうして読み合わせをするの？

- ほいく誌の内容を知る機会に
- 発言しやすい会議とするために
- 購読数の維持・拡大のため
- ほいく誌普及拡大のための活動や広報

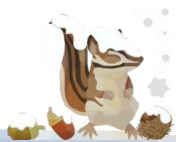
読み合わせの方法もさまざまです。指導員会や保護者会で読み合わせをしている地域も多くあります♪



今回のほいく誌ファンNo.70は、

第2回ほいく誌交流会のレポートとほいく誌コラムです。

- p1 第2回ほいく誌交流会の内容 ・ ほいく誌読み合わせ
- p2 一緒に体験「遊び」の紹介 ・ 遊びの交流
- p3 交流会の感想（参加者アンケートより）
- p4 ほいく誌コラム ・ お知らせ



2024年12月15日（日）10:00～12:00
「遊び」をテーマに交流しましょう

講師に西区の現役指導員・佐藤さんをお迎えしてZoomで開催しました。参加者は20名でした。（うち講師1名、部員4名）

第2回
ほいく誌
交流会

- ほいく誌読み合わせ
- 一緒に体験できる「遊び」の紹介
- 「遊び」について交流 ・ まとめ
- お知らせ・参加者アンケートのお願い

遊びの体験

佐藤さんに“連想ゲーム”を紹介いただき、実際にオンラインでやってみました。また、この連想ゲームや「遊び」について保育の観点から話してもらいました。その後、「遊び」について交流しました。



お題から連想されるものをそれぞれ書いて「せーの」で発表。全員が一致していればゲームクリア！

参加者で“連想ゲーム”やってみました！何回もお題にチャレンジしましたが、残念ながら全員一致ならず…



「遊び」は子どもの自主性・主体性に基づいて行われるものですが、今の子は“作られたもの”であるゲームで遊ぶことが多く、「遊び」の発想力が乏しいと感じることがあります。いつもは自由に遊んでもらっていますが、季節行事をしたりするときには、みんなでできる遊びを紹介します。子どもと一緒に「遊び」をするとき、子どもに『こういうことができるようになってほしい』という思いを乗せていますが、無理強いや強制してはいけなないので、楽しめるようにしています。
“連想して”“一致させる”ゲームでは、“協調性”“合わせること”を持ってもらいたいです。一方で、一人ひとりの“個性”もあります。この「遊び」では、相手を知って、相手に知ってもらい、一致しなくても『こんな風に思っているんだ！』『こんな風に考えているんだ！』と知ること、分かることができると考えています。ただゲームなので、残念がって相手を否定することないよう、そこをフォローするのが指導員の腕の見せ所です。人って十人十色で、『赤い果物と言えば』『ドラゴンフルーツ』と言う1年生に指導員も驚きます。全員一致することが、むしろ『!?』というところもあります。子どもは、性格や考え、発想力もそれぞれ違うので、指導員もゲームを通して子どもを知って、そして子どもの保育に活かしています。
このゲームは集団でやりますが、『ひま〜』という子どもとも簡単にやれて関係性を作ることもできます。「遊び」の中で相手の考えを知り、意外に相手と合うと分かることもあるので色なことを体験してもらいたいです。また、子どもたちが自発的に遊べるよう、『この子と遊ぼうかな』と思えるよう、ゆったりとした時間を取ってあげたいですし、学校で長い時間を過ごし、ストレスを感じることがある中で、学童ではゆっくりとした時間をもって、ゆっくりと向き合える時間を「遊び」を通じてできるといいな、と思っています。



いろんな考え方を知れるきっかけ。合う・合わないでもあるが、ばらばらでもいい。自分と違うものを排除する傾向が多い中、「一致させるゲーム」を「かぶつちゃだめゲーム」にしても面白い。

感想

遊びを通していろんな人の考え方を知れるのはいいな、大人なら揃えるかと思ったがなかなか難しい、いろんな人・考えがあるってということが知れてよかった。

感想

交流 子どもは何して遊んでいるのかな

- ジェスチャーで何やっているか当てるゲーム。みんな観察ポイントが違うので「うまい!!!」「ここはもっとこうでしょ！」子どもはよく見ている…
- お手玉を頭の上に置いて、一対一で相手のお手玉を落とすゲーム。体格差があると届かないので、頭脳戦に。手しか使えないので、押したり引いたり、フェイント。負けたくない低学年は必死で考え、余裕の高学年は取りに行き自分でこけて落とす。
- ハンドベースボールが流行っている。勝ちたいので自分ルールを作りがちだが、楽しく遊ぶために話し合えるようになり、楽しくできるようになってきた。

交流 遊びで聞きたいことや困っていること

- 相手がミスすると、それを責めてしまい遊びどころじゃなくなることがある…
- ▶ 子どもはよく考えるので「みんなが楽しく遊ぶためには」と投げかけるとよいかも。遊ぶなら「楽しく」と、子ども同士で相手が傷つかないように考えるように。
- 楽しく遊んでいる遊び相手の固定化をどうするか…
- ▶ 全体で遊んでも、集団からずと抜けていく。
- ▶ 人と繋がり合い、遊びを生み出す力を育ててほしい。一人ではできない、誰かと一緒にやって楽しめる関係性を。いいところを見つけられるような。
- ▶ みんなで遊ぶ中で、見出してほしい。子どもにもいろいろあるだろう。無理強いしなくていいかなと思う。

交流 ゲームどう取り扱ってるの 室内遊びは何してるの

- ～家庭では～
- まだやらせていないが、ゲームは自分の成長が見えるので、外遊びよりゲームにいくな。
- 外遊びは幸せを感じるセロトニン。ゲームは依存性の高いドーパミン。依存しやすい子どもには要注意。
- アプリで時間制限して管理、休日は外に誘う。
- ゲームが友達との交流の場に。時間が増え管理に悩む。ルール作るが制限難しい。
- ～学童では～
- 学校内施設なのでゲーム禁止。外遊び中心だが夏は暑く、室内でビデオ鑑賞…つまらないなあ。
- プラバンをおはじきにして遊ぶ。ゲームは「なくなったらダメでしょ」でルール決め。
- 土曜日は玩具持参OK、ゲーム類NG。玩具は、ぬいぐるみ・野球盤・ポケカ・デュエマなど。
- 室内遊びはアイロンビーズやアクアビーズ。けん玉が流行、検定表で盛り上がっている。

まとめ

「遊び」や取り巻く事情が違う。面白そうな「遊び」を持ち帰り、保育にも取り入れ一緒に遊んでみて。代田先生の記事にもある「運営指針」も読んでほしい。

学校だとわずか10分の間に遊びつ次の授業の準備もするので、ゆっくりとした遊びの時間はとれないが、学童は時間無制限で遊びに対してはとてもよい環境。ルール作りでぶつかったりローカルルールでもめたり、「遊び」から多様性や協調性、人との関わり合いも学び、成長できる。ゲームは、なくせない・変化していく、どんどん話ながら考えて。

遊びについて大人が話す
と難しい話になり過ぎて
しまいますね。

子ども遊びは参考
になりました。

遊びのことなど様々な
気づきを得ました。

テーマに沿った内容で
よかったです。

いろんな遊びのやり方を
教えていただき参考に
なりました

ゲーム（スイッチなどのゲーム）
については、こどもたちの
コミュニケーションツールでもある
ため、禁止するだけが良いと
限らず、悩みの種だと思います。

子どもたちの「遊び」や「遊びの
環境」について色々と考える時間
とりました。豊かに遊べる環境を
整えるのが大人の役目かなあ
と思うので、自分の子育てにも
いかしていけたらと思います。あ
りがとうございました。豊かに遊
べる環境を整えるのが大人の役
目かなあと思うので、自分の子
育てにもいかしていけたらと思
います。

指導員さんのお話や考えも
聞くことができ、子どもの遊
び（ゲーム）との付き合い方も
考えるきっかけになりました。

ゲーム機についても悩むと
ころがあったりしたので、お
話し聞けてよかったです。

交流の遊びが楽しかった
です。遊びに関するいろいろな
勉強になりました。

これまで子どもの遊びにつ
いて知ること、考える機会に
なりました。ありがとうございました。

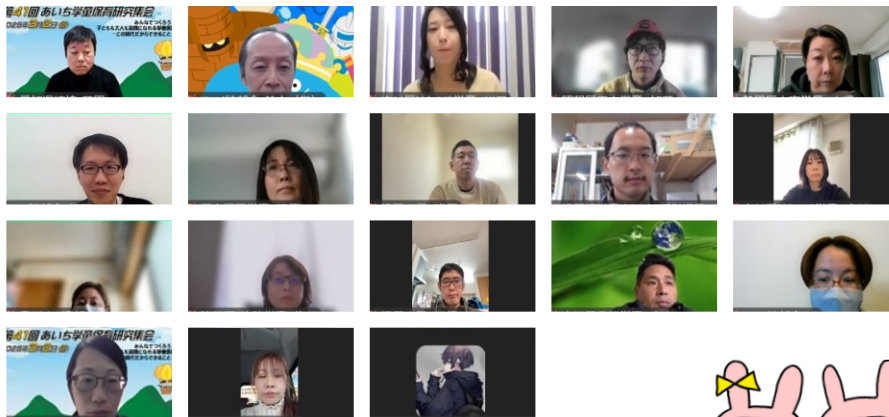
他の学童さんの取り組みや遊
びの例を伺えたこと、自分の勤
務している学童での困りごと
に対してもご助言を頂き、と
ても参考になりました。あ
りがとうございました。

初めての参加でしたが、ほ
い誌の読み合わせや意見交
流など有意義な時間を過ごす
ことができました。遊び相手
の幅を広げたいとの質問も
させていただき貴重なご意
見ありがとうございました。い
ろんな遊びをやったことがあ
ってもそれをいざというとき
にはとっと思えるように様
々な遊びに触れたのは大き
な経験です。

交流会に参加くださり
ありがとうございました。
今後の参考にさせていただきます
♪



交流会に参加された皆さんからの感想



交流会の様子





ほいく誌を読もう



お知らせ & ほいく誌コラム

こんなふうを活用して
みてください♪

「学童保育って？」

これを読めば指導員の仕事や役割などが解ります。

入所説明会で

新入所のご家庭にもぜひご紹介ください！

父母会や保護者会で

楽しい記事、参考になる記事をぜひご紹介ください！

今お読みになっている、あなたから皆さんへおすすめください！

ほいく誌の中身を知っている、みなさまから、ぜひ、ほいく誌を紹介していただきたい！新しい役員さんにもご紹介ください。

地域でお世話になっている方、議員さんや、行政(担当課の窓口など)の方にもおすすめください。

購読料はこちら

定価391円(税込)
(連協販売390円)

年間購読4,692円
(同上4,680円)

ほいく誌に関する情報は
県連協ホームページに
いっぱい掲載があります！

ほいく誌 コラム

月刊『日本の学童ほいく』は、読むことで、全国の学童保育にかかわる人々が日夜がんばっていることが伝わりますし、学童保育や子どもに関連する施策や情勢といった情報を得ることもできますので、学童保育の関係者にとっては、必読のバイブルと言えます。

もうひとつ、ほいく誌がもつ大事な要素として、運動の資金源であるという側面があります。学童保育は、保育園や幼稚園にくらべて、まだまだ施策や制度が十分ではありません。そこに追いつくのが学童保育の運動の当面の目標です。

保育園や幼稚園も、ほいく誌のような月刊誌を発行し、学習的で運動的な効果を生み、資金も得て、運動をすすめ、現在のかたちをつくっています。

そういう意味で、学童保育の関係者は、もっともっと、ほいく誌を購読する必要があります。(県連協役員 平岩)



1

見本誌活用しませんか？

ほいく誌普及・拡大に使える見本誌を準備しています。入所説明会、総会や保護者会などなど、地域でのほいく誌PRにぜひご活用ください。二次元コードからお申込みください。



見本誌申込

2

紹介チラシあります！



紹介チラシ

ほいく誌を知らない人に紹介する「日本の学童ほいく」ってなあに？をほいく誌部会で作成しています。二次元コードからダウンロードしてご活用ください。



3

地域や学童保育所へPRに行かせてください♪

ほいく誌部会の部員がお伺いし、ほいく誌をPRします！来てもいいよ！という地域や学童保育所がありましたら、ほいく誌部会にご連絡ください☺



お問い合わせ先 ほいく誌部会

愛知学童保育連絡協議会・名古屋市学童保育連絡協議会
〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町9-7-308
TEL : 052-872-1972 FAX : 053-308-3324
Email : hoikushi@gakudou.biz

県連協HP

<http://gakdou.me/>



県連協HP